

第3回 山添村義務教育学校設立推進委員会 概要

令和6年12月19日（木）
18時00分～20時00分
山添村役場 中会議室

1 開会

・開会挨拶 委員長 大矢 慎吾

2 協議事項

(1) 義務教育学校の校名について

事務局	【事務局から資料1に沿って説明】 ○義務教育学校の校名について →校名案の募集について説明 →ワーキンググループ（企画広報部）での協議について →3つの校名候補を提案
大矢委員長	【質疑・応答・意見】 現在、奈良県内で校名を「小中学校」としているのは何校あるか。
丹下委員	県内に義務教育学校は9校ある。そのうち「〇〇小中学校」としているのは4校ある。「〇〇学園」は3校、「〇〇義務教育学校」は2校である。
植田委員	「〇〇小中学校」とすると義務教育学校という意味が薄まるような感じがする。小中一貫校と混同されてしまうのではないか。
事務局	全国の義務教育学校の校名を調べてみると、どれが多いということはないが、「〇〇小中学校」「〇〇学園」「〇〇義務教育学校」となっている。小中一貫校においても、愛称として「〇〇小中学校」「〇〇学園」としている地域もある。義務教育学校においても愛称をつけている学校は無いわけではないが、極めて少ない。 また、義務教育学校を設置する経緯のなかで、まずは、小中一貫校「〇〇小中学校」としてスタートし、義務教育学校になるときに「〇〇学園」と改めたケースもある。 ワーキンググループで協議を行う時も、前期課程（小学校）から後期課程（中学校）までの子どもたちが過ごす学校であり、高校入試の願書や履歴書等に学校名を記入することや学齢期になり入学してくる子どもたちのことも考慮しながら3つの校名を提案させていただいた。
福田委員	難しい漢字のことを考慮すると、学園の「園」は何年生で学習するか。
事務局	小学2年生で学習する漢字となる。
福田委員	それならば、「学園」としても良いと考える。

川畑委員	小学生にとって「ひらがな」は親しみやすいが、中学生にとっては違和感があるのではないか。また、「学園」は私学のイメージがある。
堺委員	ひらがな表記に関して、小学校がひらがな表記となった経緯については、当時の小学校統合推進委員会で、「今日の過疎と少子化の中でやむなく学校統合されるに至ったが、仲良くほのぼのとした子どもを育てる学校を創ろう」という村民共通の思いを結集した名前とする」こととし、「斬新で発展的なイメージのもの」、「やさしさとあたたかみを感じられるもの」、「児童にもわかりやすく、親しみやすいもの」として、校名を「やまぞえ小学校」とされたと聞いている。そして、ひらがなの「やまぞえ」を子どもたちが誇れるように、村民みんなで支えていくことで合意された。ワーキンググループでも、このような経緯と村民の思いを大事にし、漢字の「山添」とひらがなの「やまぞえ」を考えたとき、ひらがなの「やまぞえ」で提案しようという結論に至った。
大矢委員長	子ども目線で考えるのが良いと感じる。 山添こども園には、「きらり」という愛称がつけられている。義務教育学校の校名に愛称をつけるとすると、例えば〇〇小中学校「かがやき」というようになるのか。
事務局	そのとおりである。ただ、あくまで通称となるので、愛称の「かがやき」の部分を正式名と勘違いしないよう、子どもたちにしっかり伝えていく必要がある。
井岡委員	3つの校名案が提案されているが、どれも山添らしい校名案だと思う。「山添さみどり学園」の「さみどり」は山添中学校の校歌に由来しているではと感じる。
福田委員	山添中学校にはあまり関わりがなかったので、「さみどり」という言葉に馴染みがないのだが。
川畑委員	「さみどり」は、鮮やかな緑の初々しさを意味している。
井岡委員	山添中学校を卒業した方には馴染みがあるが、一般的には「さみどり」という言葉は馴染みがないかもしれない。
井岡委員	ワーキンググループでは、「これが良いなあ」という話題は無かったか。
堺委員	たくさんの校名案があったので、選定基準をもとに3つの校名案に絞っていった経緯がある。 その中でも、村民の思いを大事にしていこうという合意の下で協議を進めた。愛称の「かがやき」についても、「かがやき小中学校」という校名案があり、その理由として「個々の個性を一層重視し、一人一人が輝く小中学生」という文言があり、この思いは大事にしていきたいという合意形成があった。

大矢委員長	個人的な意見としては、愛称をつけるなら、山添村立やまぞえ学園「かがやき」が自然な感じがする。愛称のある義務教育学校は非常に少ないということだが。
事務局	義務教育学校に愛称があるケースは非常に少ない。一方で、小中一貫校においては、愛称や通称が多い。奈良県内では、吉野町立吉野小学校と吉野町立吉野中学校は、施設一体型の小中一貫校であるが、「吉野さくら学園」という愛称（通称）を使っている。
川畑委員	堺委員から「やまぞえ小学校」の校名由来の話があったが、それは小学校を統合するにあたっての村民の思いという意味だと思うがどうか。
堺委員	そのとおりである。
事務局	第2回推進委員会の資料に応募された校名案のリストを委員の皆様には資料としてお配りした。ワーキンググループのメンバーにも同様のリストを配布して協議を進めた。付度等が起こらないようリストからは応募者の名前を除かせてもらっている。 参考として聞いていただければと思うが、全体的な傾向として、大人からの応募は凝った校名案が多かった。他方で、子どもたちからの応募はシンプルな校名案が多かった。 子どもたちの思いを尊重していくのであれば、「シンプルが良い」、「山添（やまぞえ）」という名前は大事にしたい」という思いを大事にしていく必要がある。
岡田委員	「さみどり」という言葉は、中学校の校歌に「さみどりにほふ神野山」と一番の歌詞の初めに出てくる。県内義務教育学校の校名を見ると、「上北山やまゆり学園」「川上源流学園」「下市あきつ学園」と「地名〇〇学園」としている。「山添さみどり学園」は、読みやすさ、山添も含んでいる点において良いのではないか。
大矢委員長	様々な意見が出てきたが、本日中に決めなければならないのか。
事務局	義務教育学校設立推進基本計画では、本年度中に校名を決定することとしている。校歌や校章・校旗等の検討を進めるためにも校名が決定しないと様々なことに影響が出てくる。教育委員会での承認や山添村議会での手続きも必要となってくるので、1月末までには選定していただく必要がある。
川畑委員	高等学校へ進学することを考慮に入ると「山添」という地名が入っている方が良いと考える。また、「さみどり」という言葉も山一面に浅緑の若芽が吹き出した山添の風景がイメージできるところが良いと感じる。
堺委員	「山添さみどり学園」という校名案で募集された方の理由に若々しい草木や葉が自然の生命力を象徴するように、これからの山添村を担う子どもたち

	に期待を込めてという思いに賛同できる。また、「さみどり」という言葉は、きれいな情景を思い浮かべられるところが良い。
大矢委員長	「山添さみどり学園」という校名案を応募された方の理由を見ると、山添中学校の校歌から「さみどり」という言葉を引用したのではない可能性もあると感じる。
事務局	ワーキンググループにおいて3つの校名候補に絞って推進委員会へ提案させていただいているが、各校名案の組み合わせを変更し新たな校名案として選定することも可能である。
大矢委員長	各委員の様子を見ると、今回の推進委員会では1つに絞りきれない感じである。一旦、持ち帰って熟考していただき、1月に推進委員会を開催し、選定していくこととしたい。 できれば全委員が納得の上で校名を選定していきたいと考えているが、次回の推進委員会でも絞りきれないようであれば、多数決で決める方法もやむを得ないとする。各委員はどうか。
堺委員	一旦、持ち帰って熟考することに異議はない。次回の推進委員会では、予め選定方法を確認した上で選定していければ考える。
全委員	【全委員が同意】
大矢委員長	それでは、1月に開催する推進委員会で選定することを確認して「義務教育学校の校名について」の協議を一旦終了する。次回の推進委員会で校名案を選定できるよう、各委員は意見を整理しておいていただきたい。

(2) 義務教育学校の施設建築について

事務局	【事務局から資料2に沿って説明】 ○義務教育学校建設基本計画について →第2回義務教育学校設立推進委員会、山添村定例教育委員会（11月）、山添村議会（文教厚生委員会）で出された意見の検討結果を報告。 →山添中学校を義務教育学校に改修するための工事期間中は、現やまぞえ小学校へ中学校を仮移転する時期については未定。 →中学校の仮移転も含め、義務教育学校建設基本計画が決定次第、保護者等への説明会を開催する予定。
川畑委員	【質疑・応答・意見】 休日等に学校図書館を地域開放する方向で考えているのか。
事務局	明確な時期については答えられないが、地域開放していく方向で考えている。
川畑委員	地域開放していく方向で考えるのであれば、セキュリティや職員の勤務等は、どのように考えているのか。

事務局	セキュリティ面では、施設開放する場合の開放する部分と開放しない部分を格子戸等で区切ることを考えている。
川畑委員	学校図書館に図書館司書等の配置は考えているのか。
事務局	図書館司書を配置できれば良いとは考えている。
池住委員	学校図書館に関わる職員がいれば有難いと思っている。学校図書館の地域開放については、将来的にそうならば良いと考えているが、具体的なことは何も決まっていない。構想段階である。
大矢委員長	現在の中学校に教職員玄関があるが、義務教育学校建設基本計画の図には職員玄関が無い。義務教育学校では、教職員も児童生徒と同様に昇降口からの出入りとなるのか。
事務局	現在はその予定で進めている。
井岡委員	県道８０号に面した部分の校門はそのままとなるのか。それとも撤去される予定か。
事務局	現在、校門の設置場所については検討中である。
川畑委員	各教室はホワイトボードに統一されるのか。
事務局	各教室の内装については、今後のワーキンググループ等で教職員の意見を反映させながら決定していく。
井岡委員	オールジェンダートイレへの入口には扉をつけないのか。
事務局	現在は扉を付けない方向で考えている。
福田委員	学年数に対して、トイレの数は大丈夫か。
事務局	現在、前期課程と後期課程の校時が未定なので、明確な回答ができないが、前期課程（小学生）の１コマあたりの授業時間は４５分、後期課程（中学生）の１コマあたりの授業時間は５０分となる。前期課程と後期課程の休み時間がずれてくるので、トイレの混雑は大丈夫ではないかと考えている。
大矢委員長	他にご意見はないか。
事務局	義務教育学校建設基本計画について、今後は、教室配置等の大きい部分の変更ができないが、細かい部分については、今後の変更が可能な部分もある。今後もご意見をいただきながら、少しでも良い方向で進めていければと考えている。

(3) その他

- 本日の協議内容については、次回の教育委員会及び村議会にて報告する。
- 山添村ホームページにおいても情報発信に努めていく。
- 日程調整の結果、次回の推進委員会は令和7年1月21日（火）に開催する。